

今年度も引き続き、校長室から日頃の「雑感」をお届けいたします。昨年度は例年以上に数多くの生徒の皆さんが校長室に足を運んでくれ、大会報告や各種イベント案内など、様々なお話を聞かせてくれました。教育活動はもちろん、そうした生徒の皆さんとの談話等も交えながら綴ってまいりますので、ご笑覧いただけましたら幸いです。

One for all, All for one. No.126

R7. 2. 3 「エッセイコンクール」

特進コース2年生4名の皆さんが、昨年公募のあった「第13回井上靖記念館エッセイコンクール」で見事入賞を果たしました。今回の共通テーマは「遊」です。



田中 夏海さんは「コロナ禍と今、私と遊び」と題し、コロナの流行で通常のコミュニケーションが難しい中、自身の「遊び」に対する感情が徐々に変化していく心の機微を綴っています。「コロナ禍で友人と直に接する機会がなくても、自分なりに楽しみを見つけようとする『遊び心』を持っていることに気づきました。今、その『遊び心』を思う存分開放し、友人と一緒にいる時間はとても豊かな時間だと感じています」

と語ってくれました。『遊び心』を持ち、自由に積極的に楽しもうという思いを大切にしていけば、どんな苦境も乗り越えられそうです。

入山 夏帆さんの『至福の時間』は、動物園ガイドの説明に新しい発見をいくつも見出し、動物への感情移入がさらに深まっていくという内容です。「自宅を離れ学習や部活動で忙しい中、休日に動物園に足を運び、ガイドの方の話を聞きながら動物の生態を観察する時間がとても幸せなんです」と楽しそうに語ってくれました。専門家の話に真摯に耳を傾け、様々な疑問を解消し、深い理解をもって動物に向き合うことの大切さを、私自身学ばせていただきました。入山さんの作品は「ナナカマド賞」という特別賞にも輝きました。

尾形 幸奈さんの「初心に帰れる小児科病棟」という作品には、自らの入院体験で実感した想いが綴られていました。「入院している子どもたちは闘病期間も長く、普通の子供たちのように長時間『外』で遊ぶことができません。それでも院内で年齢に関係なく楽しめる遊びやリハビリ的のスポーツを通して、本当の意味での『楽しさ』を味わうことができました」と当時を振り返ります。ある体験がきっかけとなり物事の本質に気づいたこと、そして今度は、そうした環境を作り出す医療従事者側を進路目標にしたことなど、とても運命的なものを感じます。

鎌田 百羽さんの作品は「花火より奇麗なもの」という題でした。部活動の長期遠征のために楽しみにしていた花火を見ることはできませんでしたが、遠征を通して自分や仲間が少しずつ成長していく姿に心を動かされたというお話でした。「最初は強豪校相手に何もできずにいましたが、一人一人が徐々に声を出すようになり、動きにもメリハリがついて切れ味鋭い技が繰り出されるなど、チームメイトの眩しいばかりの成長が、花火以上に

美しく感じられました」と目を細めます。奇麗と感じるのは視覚的なものばかりではありませんね。

受賞作品は全て読ませていただきましたが、皆さんの研ぎ澄まされた感性に改めて驚かされます。今後も様々なことにチャレンジしながら、あらゆる感情を実感して欲しいと思います。

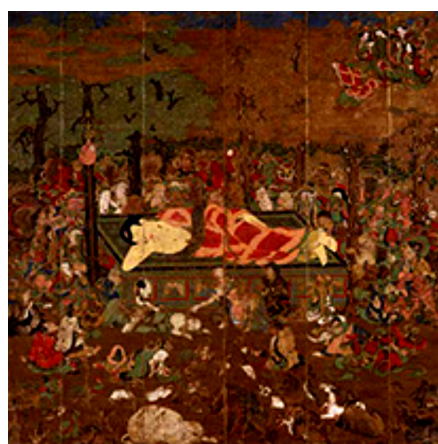
One for all, All for one. No.127

R7. 2. 5 「涅槃会」

「涅槃会」は、お釈迦さまが入滅された日をご縁として勤められる法要です。お釈迦さまは29歳で「出家」され、35歳で「悟り」を開かれ、以来45年間「み教え」を説かれ、80歳で「入滅」されました。

本日はインフルエンザ拡大防止を考慮し、放送にて法要の儀を執り行いました。

法話では、宗教部教諭 藤平 竜多先生が『南無阿弥陀仏』の『南無』は『かえるいのち』のことで、言い換えると「尊敬しますとか帰依します」という意味になります。私たちが阿弥陀仏を信じ、帰依することが、そのまま本尊の内容となっているのです。私たちにできることは、阿弥陀仏の救いを受け入れ、静かに南無阿弥陀仏と称えること以外にはありません」とお話されました。



One for all, All for one. No.128

R7. 2.23 「合唱部が金賞受賞！」

札幌で開催された「ヴォーカルアンサンブルコンテスト」において、本校合唱部が女声チーム、混成チームの両部門で見事「金賞」を受賞しました。

昨年暮れに3年生が引退し、新たな編成で臨んだコンテストだけに今回の受賞は大きな自信になったことと思います。全道大会でも他校から一目置かれる存在となった合唱部とは言え、メンバーが毎年変わる中で好成績を維持していくことは並大抵のことではありません。改めて部員の皆さんの日頃の練習への直向きな努力に敬意を表します。



2年生部長の 千田 梓沙さんは「新メンバーも皆明るく元気いっぱいです。一人一人の大きな力が一つにまとまり、より情感溢れる音楽を奏でられたらと思っています」と抱負を語ります。また、「日頃の生活にも部活動にもメリハリをつけ、歌のみならず人間的にも幅広い視野を身につけていきたいです」と自らの生き方とも真摯に向き合います。

各種コンサートだけでなく、地域の依頼に応え社会貢献にも積極的に関わっている合唱部の皆さんの今後の成長が益々楽しみです。

R7. 2.24 「第4回定期演奏会」

合唱部が旭川市公民館を会場に定期演奏会を行いました。この演奏会は引退した3年生がこれまで支えてくださった多くの皆様への感謝の気持ちを込め、企画運営すべてを手掛け毎年催しているものです。

第一部では、全道で金賞を受賞したアンサンブル曲を中心に、澄み切った歌声をじっくりと聞かせる構成でした。一人一人の透き通るような美しいメロディーが重なり合って、より重厚な深みのある歌声となり聴衆を魅了しました。

第二部は、打って変わって「スタジオジブリメドレー」です。10曲にもわたるジブリの名曲を様々なアレンジで歌いつなぎます。視覚的にも楽しめる老若男女を問わないエンターテイメントに時間の経つのも忘れてしまいました。



第三部は、引退する3年生の思いと、その思いを引継ぐ後輩たちを交えての情感こもる合唱曲で構成されていました。ただ歌うだけでなく、歌詞とメロディーに合唱部の皆さんが目指す人としての在り方が織り込まれ、聴く人の心に強く響く演奏でした。

このたび、美しいピアノの音色は勿論、演奏会そのものを彩っていただきました伴奏の眞岸 祥平先生には、この場をお借りし心より厚く御礼申し上げます。



R7. 2.26 「出前授業」

1学年キャリアデザインコースの「総合的な探究の時間」を活用し、地域活動について皆で考える時間を設けました。

市民生活地域活動推進課の木下 哲夫氏（現保護者の会会長）をお招きし、地域活動の重要性や現在行われている旭川市の取組、課題等について概要を学びました。

講話後は小グループに分かれ、地域活動に携わることの意義や、高校生としてどのような関わり方ができるか等について、生徒同士で意見交換しました。



既に「校長室から」でもいくつか紹介していますが、本校のインターアクト部や部活動の生徒の皆さんも、日頃から身近な地域活動に積極的に関わっています。そうした経験を通して、生徒は多くを学び、視野を広げ成長していきます。

今日の出前講座が、地域活動に参加するきっかけづくりになってくれることを願っています。探究の時間は、自ら課題に対峙し、自ら考え、他と協調しながらその考えを深め、意義や目的、解決策を探っていく大変重要な学びとなっています。

R7. 2.28 「同窓会受入式」



卒業授与式を翌日に控え、3年生が久しぶりに元気な姿を見せてくれました。予行を終えた後、3か年皆勤及び精勤と1か年皆勤の表彰式を行いました。厳しい規定をクリアーし、常に前向きな高校生活を送ってきた強い精神力と弛まぬ努力に改めて敬意を表します。

その後、第65期生の「同窓会受入式」が執り行われ、会長の竹部 修司 様から温かなお祝いと輝かしい未来に向けての激励のお言葉を頂戴しました。また、同窓会の概要についてご説明いただき、生徒たちは卒業後のさらに固い絆を誓い合いました。

既に2万名以上の同窓生が道内外で活躍され、現役生を様々な場面で支援してくれています。今度は今春の卒業生が同窓生の一員となり、後輩たちを明るい未来へと導いていく番です。

